

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 千464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 竹内真三

No.14 (1983~1984)

みんなにロータリーを —— みんなに奉仕を
Share Rotary —— Serve People

1983~84年度RI会長 ウィリアムE. スケルトン

第58回例会 昭和58年10月4日(火)晴

ガバナー公式訪問

◇ “君が代” “奉仕の理想”

◇ 出席報告

会員 48名 出席 41名

出席率 87.23%

◇ 前回 9月27日(修正出席率) 100%

make up

安藤君(9/30北), 浜口君(9/26空港), 橋本君(10/1守山), 林君(9/28名北), 石田君(9/25年次大会), 加藤(保)君(9/29瑞穂), 河合君(9/29瑞穂), 松居君(9/25年次大会), 新美君(9/25年次大会), 菅原君(9/25年次大会), 鈴木(猛)君(9/22東南), 谷口君(9/25年次大会), 都築君(9/26空港)

◇ ビジター紹介 13名

◇ 誕生日祝福

水野(賀)君(10/5), 西川夫人(10/5)

◇ ニコボックス

第260地区奥澤ガバナー(本日公式訪問させて頂きます), 水野(民)君(公式訪問が成功裡に終了する事を祈って), 竹内君(奥澤ガバナーを歓迎しまして, 又公式訪問が無事に終了しますように), 三輪君(奥澤ガバナーを歓迎しまして, 又公式訪問の成功を祈って), 菅原君(私の本が中日新聞で紹介されまして, 又9月ゴルフ会初優勝いたしました), 黒須君(職業奉仕月間に入りましたのでよろしくお願ひします), 河合君(ホームクラブ御無沙汰しました), 都築君(ホームクラブ御無沙汰しました), 杉山君(本日のクラブアセンブリーを欠席させて頂きます), 水野(賀)君(誕生日祝, 結婚記念祝), 西川君(夫人誕生日祝)

◇ 三輪幹事報告

1. 本日例会終了後, クラブアセンブリーを行いますので理事役員, 各委員長の方々は百合の間にお集り下さい。

◇ 水野(民)3分間スピーチ

本日, 偉いお客様が多勢おいでになるゆ

え, 心臓の強い私が指名されたようです。先週, 今週と寺澤ニコボックス委員長の御助言のおかげでニコボックスが多くなったのは嬉しいことです。私も久しぶりにお話しさせて頂いたので感謝を込めて「ニコニコ」入れました。

◇ 竹内会長挨拶

第58回の例会を奥澤ガバナーをお迎えして開催できますことは何よりも光栄に存ずる次第であります。又先々週に次いで田中分区代理にも御介添を頂き感謝に耐えません。本日はガバナーのお話を十分にメンバー諸君に聴いて頂きたいので, 私の話は簡略にいたします。

私が奥澤ガバナーを存じ上げましたのは昨年の10月19日, 当千種R.C.のチャーターナイトの壇上でお目にかかったのが最初であります。水野前会長の御発案で突然に国際委員長だからトロント委員長もやれと命ぜられ, トロント委員長として, 恐いもの知らずゆえ, 当時の奥澤ガバナーノミニーと「トロントでお目にかかりましょう」と大きなことをいって晴れがましくも握手をして頂いたのがそもそもであります。質朴で御気持の丁寧そうな外柔内剛の方だなとの直感が私にはありました。

さて年が明けまして, 国際奉仕の副委員長に甘んじてコンビを組んでくれた林君が私に, 「オイ委員長, トロント委員長の方はどうなるんだい……握手しただけの委員長では奥澤さんに対して申しわけないではないか」と半分ケンカ, 半分決心するように励まして御承知のようにこの6月の国際大会には守山R.C.の御協力も得て当千種R.C.主催のツアーを編成してトロントへ行って参りました。では「トロントでお目にかかりましょう」は実現したのかと申しますと, 残念なが

ら実現しませんでした。打合わせて出かけたわけではないですからそんな安直な事柄ではなかったのです。しかしツアー最終日、いよいよカナダを後にするという当日になって、なんとバンクーバーの空港ロビーにて奥澤ガバナーエレクトにお目にかかりました。各地から集った多くの Rtn やら乗客でゴッタ返す広い空港の中で、ロビーの椅子に独り座して何事か考えておられる奥澤ガバナーらしき人を見つけ、半信半疑ながら思い切って御挨拶申し上げたところ、間違いない奥澤さんその人でした。私はその奇縁に感謝し、トロントでは果し得なかったお約束をバンクーバーで果たしたという次第であります。同行の成田君、黒野君が近くにおられたので御紹介しましたが、これが第2回目の邂逅であります。

3回目はもう申すまでもありません。6月19日の地区協議会に R. I. スケルトン会長の Share Rotary, Serve People を引っ掛けて登場された奥澤ガバナーエレクトであります。先日の松本市での 260地区の年次大会で拝顔していますので本日で5回目のお目もじということになります。

私事ばかり申し立てて恐縮ですが、この6月の地区協議会でのやりとりは殆んど忘れてしまいましたが、そこで印象に残った二点を申し上げたいと思います。

一点は、会長部会において Share Rotary に関して会員の増強の質か量かについてのお考えを示された点です。昭和36年、松本 R. C. より松本南 R. C. が設立され、初代幹事として愛知県で開催された地区協議会へ臨まれた時のことを述べられました。即ち、その会議で某クラブ会長より「最近クラブの質が低下しているように自分は思うが、会員増強についてガバナーはどのような見解か」と質問が出たそうです。最近『質』が低下しているが……とは既存のクラブの問題ではなく、当然新しくできたクラブが仲間にするに価するかどうかと問われたようで、大変ショックであったと述べられました。それに対し当時の山岸ガバナーは、「日本の R. C. は世界的な標準からみると、あまりにも質が高すぎる。だから決して質が低下するということはありません。『質とは何を基準にしているのか』の問題に間接話法で以て奥澤ガバナーの姿勢を示されたものと受け止めてきました。資格を入会の段階ではクラブとして十分に勘考されている筈のものが、若し質が低いとするならば、それはクラブの責任である、アフターケアを十分にしない、又新メンバーを同化し得ない、R. C. 側の責任であると奥澤ガバナーエレクトはいわれたのであります。

第二点は、当日の最後の詰めのスピーチで、先ず、エド・マクラウリン会長の

「You are Rotary」

Live it それに生きなさい

Express it 表現しなさい

Expand it 拡大しなさい

を引用され、次にジョセフ・エービー会長の「行動の年」「ACT」即ち、

Aim for Action 行動に努めよ

Communication for Understanding 理解に途を求めよ

Test for Leadership 指導力を高めよ

と御二人の R. I. 会長のターゲットを引用されました。

奥澤ガバナーの Share Rotary, Serve People に対するお考えが、私なりに何か理解できるような気がしました。

ロータリーバッジそのものが Status (社会的地位) を表わす意味は年々薄れていきます。そうではなくて Action があって初めてバッジが精彩を放つのだと度々私申し上げております『行動があり参加があり関心がある』処が Rtn の立脚地であります。

『行動もなく参加もなく関心もない』ではラベル・ボタン・メンバーと言われても仕方ありません。

御隠居仕事でなく、私も含めて多忙な中で R. C. 活動であればこそ、一段と意義を増します。共々頑張ろうではありませんか。

◇第260地区奥澤俊一ガバナー講話



名古屋ロータリークラブの承認は、日本で3番目であり、戦前には36のクラブがありました。昭和36年に私ども松本南クラブが松本クラブのアディショナルクラブとして誕生いたしましたし、私もメンバーにさせて頂きました。スケルトン会長から、「Share Rotary, Serve People」というテーマが出され、アンケートの結果、質と量の問題がとり上げられています。最近国際ロータリーでは、会員を増やせというが、量よりも質の問題を重視したい。「量は質を変える」という言葉もある。自分達のクラブは独自の途を歩むのでよろしくというのが大体の意見でありました。

この20数年間、質とは何かと考え、いまだ

に明確な理論づけは持っておりません。ロータリアンとして適格であるかどうかという判断は、ロータリーの会員になって、十分その精神を身につけ、それを職業生活あるいは社会生活に適應していること。それが質の問題に十分繋がっていく問題だと思えます。

「Share Rotary」は「皆に、ロータリー」ですが、「できるだけ多くの人にロータリーを分ち合う」ということで、「ユアロータリー」という言葉を思い出しました。ロータリーの考え方は、人生哲学です。人生哲学は多くの人々に広めていくことが組織としては当然大切なこととなります。

今、地球には45億の人が住んでおります。善意ばかりの人の集団ではありません。個々のお付き合いではすばらしい人に違いありません。ところが現実には国同志が仲良くやっているかというとそうでなく、紛争がいろいろ起っている時代です。それぞれの国が豊かな社会にすることも難問ですが、すべてが豊かになっても食糧・資源の枯渇、公害などの問題がついて回ります。今のロータリーがどんな素晴らしいクラブであり、ある限られた人の優秀な集団であっても、それだけで地球に対する責任を果たしたということにはなりません。国際ロータリーという立場で、一つの世直しというか、世のため人のためになることを考えていかなければなりません。

限られた人の中ではいい教えもなかなか広がりません。できるだけ多くの人がロータリーを理解してくれて、それを45億の人に及ぼすようにしなければなりません。いろいろ立派に役立っている我々の日常生活になくは困るような仕事をしておられる方は、できるだけ多く会員になって頂いて、その人々にロータリーの考え方を持って頂く。それによって、その方の職業生活あるいは社会生活を、そのロータリーの考え方を適用して頂く。それによって、地域社会が次第に明るく、住み良い社会の方向へむいていく。また、地球にも大きな影響を与えるような力をもっていくのではないか。これがスケルトン会長の強くいわれる「Share Rotary」だと思えます。「Serve People」もより多くの人に奉仕しようではないか、この意味が、この言葉の中にあると思えます。(文責・大谷)

◇奥澤ガバナーとの会長幹事懇話会



なごやかに談笑される奥澤ガバナー

例会1時間前の午前11時の定刻通りに無事到着された奥澤ガバナー、田中分区分代理を迎えて、竹内会長、加藤(大)副会長、三輪幹事及び谷口副幹事を交えた懇話会が開かれた。

——クラブアセンブリー——

例会終了後、奥澤ガバナー、田中尾張第一分区分代理の御指導のもとにクラブアセンブリーが開かれた。公式訪問も昨年引き続き、二度目の経験とあってか、理事役員・各委員長も緊張した中に余裕の感じられる雰囲気でも和やかに滞りなく進行した。

各委員長も疑問に感じることを奥澤ガバナーに率直に質問し、それに対して納得のいくまで説明される奥澤ガバナー、適切な助言を加えられる田中分区分代理のお言葉に一同熱心に耳を傾けていた。



終始なごやかに話される奥澤ガバナーは長時間にも拘わらず、時間が延長するほど豊富な御助言をされ、お疲れの様子もなく次の公式訪問に向かわれました。

ロータリアンの質について思うこと

川崎ロータリー・クラブ会員であった笹部誠氏(D. 359 P. G.)は、著書「ロータリーあれこれ」の中で、ロータリアンを「入会に際してはクラブ定款第11条によってロータリーの綱領を承認し、定款及び細則の遵守を誓った筈であるから、そんなに異なる筈はないのであるが、それがそうではない。」として、4種類に分類された。要約すると、

ロータリアン第1種

例会への出席は完全である。例会に欠席しても、メーク・アップは必ず行い、時には相当遠いクラブへも訪問する。定款や細則は完全に知っており、手続要覧のどこに疑問の解答がある位は憶い出せる。クラブ活動は、命ぜられたことは勿論、自ら発意して活発な行動をする。ロータリーに費した時間を惜しいと思わず、却って奉仕の喜びを感じる。

ロータリアン第2種

例会への出席は完全である。人々との間も親密である。ところが、クラブ・フォーラムとかクラブ協議会とかI. G. F. とかには出席しない。定款、細則には無関心で、呑気にも自分は国際ロータリーの会員であるとすましている。積極的な奉仕はやらないが、言われたり、教えられたりすれば従順に仕事はす

る。

ロータリアン第3種

出席はまずまず良好である。人々との交りも良くやる。然し、ロータリーについては何も知らずとせず、何か任せられると「私はとても忙しくて。」と逃げてしまう。例会で食事をして、しゃべって、何か聞いて帰ることがロータリアンであると思っている。

ロータリアン第4種

毎週の例会なんて多すぎる、と苦情を言い、クラブの出席低下など眼中にない。自分ほどの地位の職業人ともなれば忙しくてそんなに出席できないと言い、地位を鼻の先にぶら下げて偉がり、入ってくれと言うから入ってやったんだとばかりロータリーのことは知らずとせず、おのれの仕事に比べればロータリーの奉仕など可笑しくてやっつけられるか、という人々。

「さて皆様は第何種会員でいらっしゃるのですか？」と結ばれている。名古屋 R. C. の「50年史」を拝見したところ、ロタキチ三人衆として、小林雅一（名古屋 R. C. 初代幹事）、露口四郎（大阪 R. C.）、盛田秀平（D. 260 P. G.）の三氏が紹介されていた。日本のロータリーを今日あらしめた功労者の方々であるが、第1種のロータリアンに属することは明確である。ロータリアンの質はこのような分類を基準として考えてよいと思われるが、どんなものであろうか。

（ガバナーステターより）

◇昭和58年8月度分區別会員数及び出席率

分 区	クラブ名	会 員 数	出 席 率	例 会 数	前 会 員 数	増 減
尾 張 第 一 分 区	半田	64	98.66	4	64	0
	半田南	45	98.58	5	43	+2
	東知多	48	99.46	4	48	0
	名古屋	212	96.62	5	208	+4
	名古屋千種	48	98.72	5	47	+1
	名古屋東	95	98.90	5	94	+1
	名古屋北	95	100.00	4	96	-1
	名古屋名北	55	100.00	5	55	0
	名古屋名東	55	100.00	5	54	+1
	名古屋南	116	99.80	5	114	+2
	名古屋港	102	100.00	4	102	0
	名古屋瑞穂	61	98.80	4	61	0
	名古屋守山	80	99.65	4	79	+1
	名古屋中	96	99.76	5	96	0
	名古屋西	145	98.91	4	138	+7
	名古屋東南	80	100.00	4	82	-2
	名古屋和合	76	100.00	5	76	0
	東海	49	96.56	5	49	0
常滑	60	98.33	4	60	0	
	19c	1,582			1,566	+16

バーミンガムで開かれる国際ロータリー1984年国際大会への公式招待状

同僚ロータリアンの皆さん。

ロータリー史上、初めて、イングランドで国際大会が開かれます。英国では一度国際大会が開かれたことがあります…1921年のスコットランド、エジンバラで開かれた国際大会です。1984年6月3日～6日にかけて、この「緑の豊かな楽しい国」の中央部で、ロータリーの世界家族が、より一屈みなりに奉仕することができるように、みんなにロータリーを分かち合う特別な機会を持つこととなります。

私は、全ロータリアンに、イングランド、ウエスト・ミッドランズ州バーミンガムで開かれる1984年国際ロータリー国際大会に是非出席されるよう要請します。

国際大会は、空陸に交通の便の良い、立派な National Exhibition Centre で開かれます。国際大会では、世界的な著名人が主要なテーマについて講演することになっており、英国風の盛儀盛宴と和やかな親睦とにあふれた大会となることでしょう。

この Exhibition Centre の近くにバーミンガムが位置しています。バーミンガムは、過去、現在、未来にわたり、国際交易に輝かしい貢献をしています。周辺にはイングランドの真髄が存在します…シェークスピア誕生の地、城と荘園、世界的に有名な陶器製造地、なだらかな農村風景などであります。

ここ、イングランドの中央部で、私達は、ロータリーの核心である奉仕を探り、広げるまたとない機会に恵まれるのです。私から皆さまに送る、この招待状に応じて、この歴史的なロータリーの催しに是非ご参加下さい。

敬 具

William E. Skelton

ウィリアム E. スケルトン

国際ロータリー会長（R I ニュースより）

◇次回例会（10月11日）

講演 “名古屋ことば・東京ことば”

朝日新聞編集委員 竹内 俊男氏

（紹介者 秋山君）

◇次々回例会（10月16日）

10月16日（日）の家族会のため、講演はございません。尚、18日（火）は例会はございませんのでお間違いのないようお願いいたします。